

Title	日本の汎用コンピュータ市場における競争条件の分析
Sub Title	
Author	小栗清剛(Oguri, Kiyotaka) 関口操
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0075

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 小栗清剛
(富士通株式会社)
所属ゼミナール 古川公成研

主査 関口 操 教授
副査 古川公成 助教授
柳原一夫 助教授

日本の汎用コンピュータ市場における競争条件の分析

本論文においては、① 汎用コンピュータ市場においてIBM1社が世界の60%近くのシェアを維持している競争力の原因を解明し ② 日本市場では日本IBMが28%のシェアに甘んじ富士通、日立、日電といった国産上位メーカーが何故15~20%のシェアを維持できたかを明らかにするのが目的である。競争力の要因を、技術、財務、製品—市場要因に分けてそれらの変化を分析した結果、②について次のことが明らかになった。

- (1) 国産メーカーは市場成立期において、技術上、資金上の制約からIBMの狙わないうセグメントを求めた。これは小型機であり、卸、小売やサービス業、官公庁市場であり、中堅企業であった。
- (2) しかし、70年前後からのバッチからオンライン、集中化から分散化への傾向は中・小型機や端末機市場の拡大を招き、他方産業構造の変化は、第三次産業の市場地位を押し上げた。これら技術と市場の変化は、国産メーカーの狙ったセグメントと一致し、国産メーカーの市場地位の浮上を呼んだ。
- (3) 他方日本IBMは、大型機と金融業、大企業を中心に、大きなセグメントで高シェアをあげていたが、前記のような技術と市場の変化、更には市場規模の急速な拡大のため、1社で独占的な地位を維持し続けることができなくなり、相対的な市場地位の低下を招いた。
- (4) 現段階では、国産メーカーは、従来の市場基盤をてこに、IBMの狙っているセグメントまでおびやかすようになった。